

運営推進会議議事録

- ① 出席者 元市役所職員 春名 啓介 (代理 春名桂子)
(運営推進委員) 地域住民代表 (高野神社総代、町内副会長) 岸本 進
地域住民代表 (松上町内会代表) 河原 志乃 (本日欠席)
利用者家族代表 上村 厚方 (代理 上村利子)
ウナデ会理事長 松尾 直光
管理者 松尾 千鶴子

② 5月末の利用者数

介護度	1	2	3	4	5
人数	9人	11人	1人	2人	

総合事業	支援1	支援2
		6人

ふれあい交流	1回利用	2回利用
	1人	1人

他 入院中 3名

自費	1回利用	2回利用
	6人	2人

*ふれあい交流の曜日追加について

7月から火曜日・水曜日・金曜日の3日となった

(理由) 支援2で2回利用していた利用者が支援1となり、またケア会議の決定でふれあい交流の対象者となった。本人の希望でこのままデイサービスの利用の希望があり、本人(男性)今までの利用日の水曜日を追加することにした。
男性利用者の多い水曜日にふれあい交流を受けることで、幅広くデイサービスを利用してもらうため、1日追加を7月中に申請する。

⑤ コロナ感染防止の説明と対策

及びデイ利用者の現状

*感染予防のため施設内研修を行い、安心して利用してもらえる体制を整えた。

- ・ご利用時前及びご利用中の検温、味覚や嗅覚の異常などの有無確認
- ・送迎車内の消毒の徹底
- ・来所時のアルコール消毒、検温、マスク着用、咳エチケットの徹底
- ・利用時に定期的な換気を行う
- ・ボランティアの受け入れや外部の訪問者の受け入れを中止
- ・座席の間隔をあけて透明の亚克力板の設置
- ・特にマスクを外す場面で(食事中など)は利用者同士の間隔を空ける
- ・ご家族の体調確認、帰省のご家族状況も確認し、利用をしてもらう
- ・室内の数か所にアルコール消毒液を置き、消毒しやすい環境をつくる

* 理事長 松尾 による高齢者のワクチン接種説明会 (2月23日・28日開催)
ファイザー製薬のコミナティの安全性・副作用について・接種の勧め

* 利用者23名がすでに接種・接種予定となっている。(1名接種を希望しない。)

(R3年 6月末)

⑥ 半年間のレクリエーションの状況と今後の取り組み

- 1月 高野神社初詣 高齢者ヨガ、音楽療法、川柳、切りえ教室
- 2月 節分行事（豆まき、行事食）、高齢者ヨガ、音楽療法、川柳、切りえ教室
- 3月 ひな祭りの行事食、高齢者ヨガ、音楽療法、川柳、切りえ教室
- 4月 お花見（久米道の駅）、高齢者ヨガ、音楽療法、川柳、切りえ教室
- 5月 青葉を楽しみにドライブ（グリーンヒルズ）、高齢者ヨガ
- 6月 オンラインレクリエーション（3回）

＊5月に緊急事態宣言が発令され外部からのレクリエーション講師を中止。
（音楽療法、切りえ教室、川柳、高齢者ヨガ）

＊オンラインレクリエーションの実地について

JOYSOUND（カラオケ機械メーカー）による無料のオンラインレクリエーション
理学療法士によるクイズやダンス、フレイル体操を全国の施設が参加し40分行った。
zoomを使用することで画面を通し他施設の様子がわかり、好評だった。
毎回30～40施設が参加があった。
7月の参加予定（2回）

⑦ 研修計画について

- 2月 利用者及び職員に対してコロナワクチン接種の重要性を説明
- 3月 セコムによる警報機の確認、職員の火災訓練の手順確認
- 4月
- 5月
- 6月 災害時に備えての緊急連絡網を作成中
（コロナ渦により年間研修計画通りに実施できなかった）

★備え付けのAEDのバッテリーの交換に伴い、AEDの使い方の研修を再び行う。
（津山医研に依頼する。8月 または 9月予定）

⑧ 1月の高齢介護課による実施指導の結果

- ・タクシーによる送迎に対する減算指導
（理由）タクシーによる送迎が施設の職員不足と判断され、送迎減算を行うように指導された
（結果）高齢介護課に過誤申請を行い（2月、3月、4月）、5月中に該当者の返金をした。
- ・通常規模デイサービスから地域密着型に移行したため、重要事項説明書に不備がみられ、
改正を求められた。
（現在変更中）
- ・ファイルなどの整理も通常規模からの移行で整備できていない点がしてきされた。
（現在必要な書類を利用者ごとに確認し、そろえる準備をしている）

⑨ 厨房業者（魚国総本社）への要望など

11月より魚国総本社に厨房を委託した。津山市内でも高専、大学寮、医療機関での実績があり委託をお願いした。
現在利用者は普通職に加え、ミキサー食、刻み食、アレルギー食と食事制限のある利用者がある。2か月に1回行われる給食委員会で魚国総本社で対応できる食事形態を具体的に写真を取り入れたサンプルを提示してもらうように要望している。
今後利用される方に対して、写真などを使い説明したほうがわかりやすい。また、食事制限のある利用者の受け入れにも役に立つと考えている。